

EPSは長期の断熱性能に 優れています

発泡スチロール協会では平成25年（2013年）に、会員に試験体の提供を募り、JIS A 9511規格の「1号品、2号品、3号品、4号品」に相当する合計53検体の試験体の製造直後から90日後までの熱伝導率（λ）の経時変化を公的試験機関で測定致しました。

3年が経過した平成28年（2016年）に試験体の熱伝導率を改めて公的機関で測定し、「3年間の経時変化」の実態を調査致しました。

その結果、以下のグラフに示すように

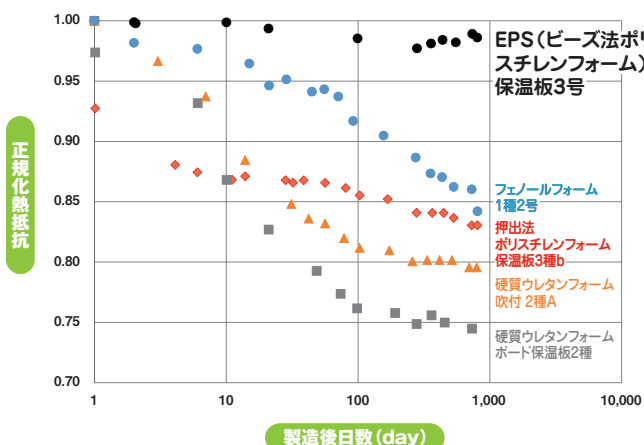
「EPSの断熱性能変化は他の発泡プラスチックと比較して、極めて少ない」事が実証されました。

“断熱性能の長期安定性”は快適な生活空間の確保・維持、住宅の長寿命化と価値の継続に欠かせない要因です。

長期の断熱性能の変化が極めて少ない事が実証された「EPS断熱建材」は、住宅の新築時点だけでなく、長く住み続けても安心出来る断熱材と言えます。

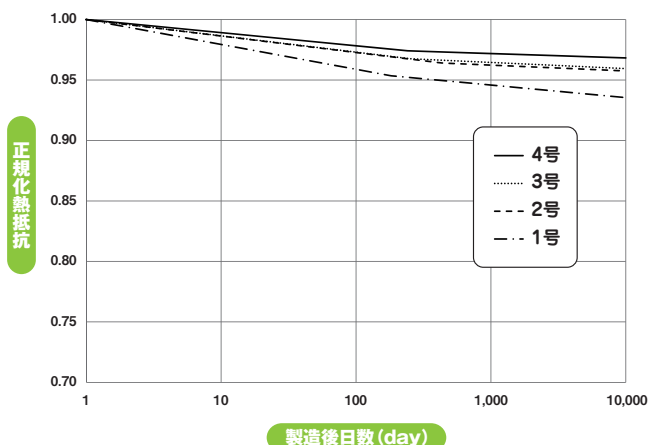
断熱性能の（長期）経時変化

発泡プラスチック断熱材の製造直後からの
正規化熱抵抗の経時変化



出典：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
平成19年度「断熱材の長期断熱性能評価に関する標準化調査成果報告書」
平成20年3月より作成

EPS断熱材の製造直後からの
正規化熱抵抗の経時変化



平成25年及び平成28年の測定値
推定自己消火性発現（製造約10日後）以降の変化

